

Ⅱ-2 樹木Ⅰ調査

1. 樹木の現況

(1) 区全体の現況

【全体（樹木Ⅰ・Ⅱ調査合計）	(H26)		(R5)
○樹木本数	28,365本	→	26,234本
【樹木Ⅰ調査】			
○直径20cm以上の樹木本数	22,480本	→	20,465本
○樹木本数の増減	1,544本の減少	→	2,015本の減少
○変化率	6.4%の減少	→	9.0%の減少

空中写真より作成したオルソ画像と、前回調査（2014（平成26）年度）とを比較し、25㎡以上のまとまった樹木被覆地の消失・増加箇所の抽出を行い、この部分について前回調査結果の*1胸高直径20cm以上の樹木の位置、樹種、直径を調べ、地域ごとの分布状況に反映した。

なお、樹木Ⅰ調査では道路植栽の樹木については調査対象から除外しており、道路植栽の調査結果については樹木Ⅱ（道路植栽）調査に記載する。

樹木Ⅰ調査における本区の直径20cm以上の樹木の本数は20,465本である。直径別にみると、直径20～30cmは10,923本、直径30～40cmは5,475本、直径40cm以上は4,067本となっている。樹種はスダジイ、サクラ、ケヤキ、イチョウ、シラカシ、ヒマラヤスギの順が多い。樹木の分布を図Ⅱ-2-1に示す。

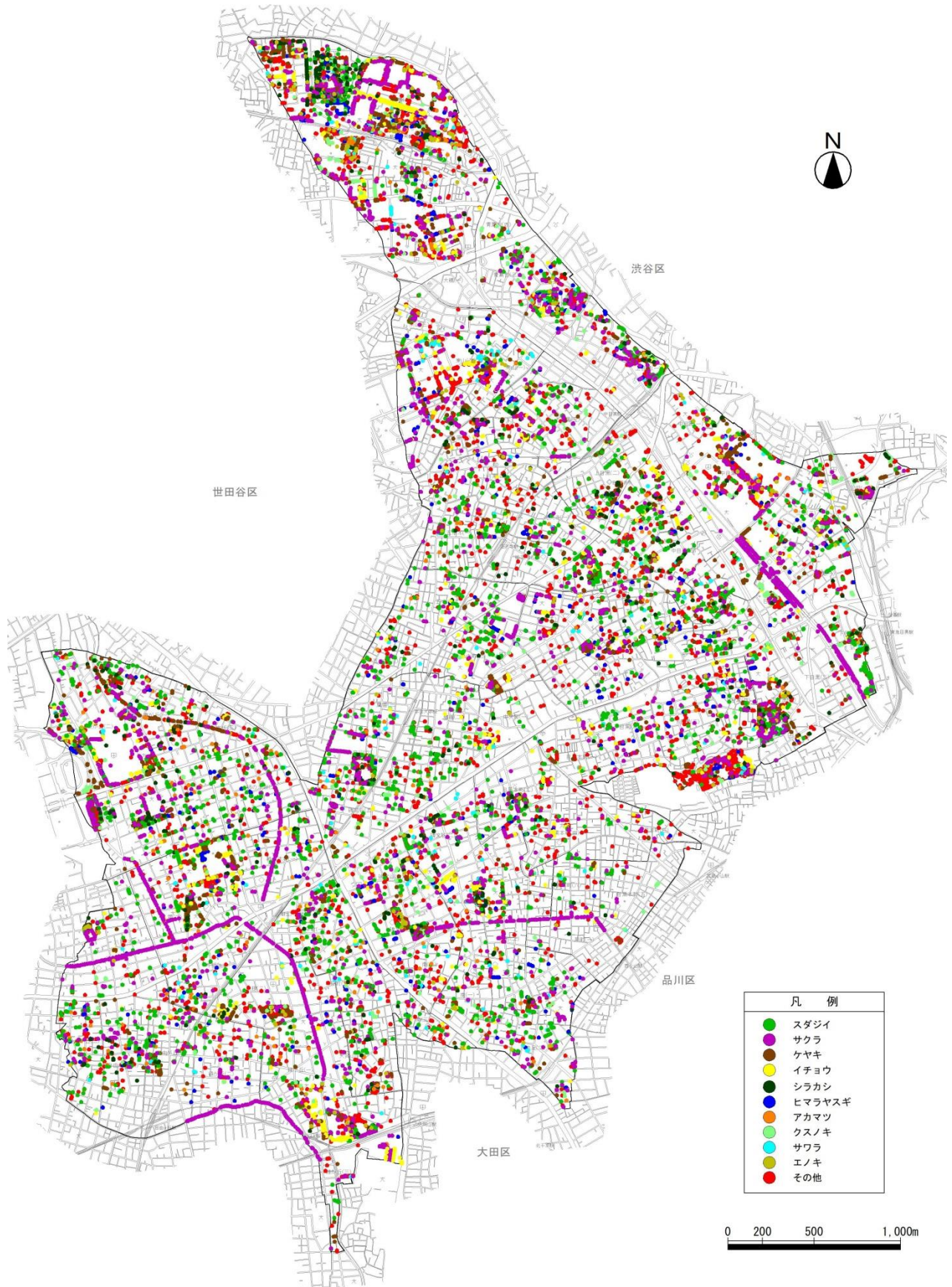
前回調査から変化した樹木本数を表Ⅱ-2-1に示す。前回から減少した樹木の本数は2,852本、新規に確認された樹木は837本で、差し引き2,015本の樹木が減少したことになる。

変化率（前回樹木本数を100とした変化の割合）は-9.0%で、直径区分別では、直径20cm以上30cm未満で-11.2%、直径30cm以上40cm未満で-7.8%、直径40cm以上の樹木では-4.1%となっている。

表Ⅱ-2-1 樹木本数の経年変化

直径区分	樹木本数 (本)	減少した 樹木(本)	新規確認 樹木(本)	変化本数 (本)	変化率 (%)
A 20cm以上30cm未満	10,923	1,824	446	-1,378	-11.2
B 30cm以上40cm未満	5,475	652	190	-462	-7.8
C 40cm以上	4,067	376	201	-175	-4.1
合計	20,465	2,852	837	-2,015	-9.0

*1 胸高直径：資料編 P.166 用語集(12)参照



注) 道路植栽の樹木は除く

図Ⅱ-2-1 直径20cm以上の樹木分布図

(2) 地区、住区別の現況

	(H26)		(R5)
○樹木本数の多い地区	西部地区 (6,087 本)	→	西部地区 (5,541 本)
少ない地区	南部地区 (2,820 本)	→	南部地区 (2,421 本)
○樹木本数の多い住区	駒場住区 (3,410 本)	→	駒場住区 (3,308 本)
少ない住区	向原住区 (206 本)	→	向原住区 (167 本)

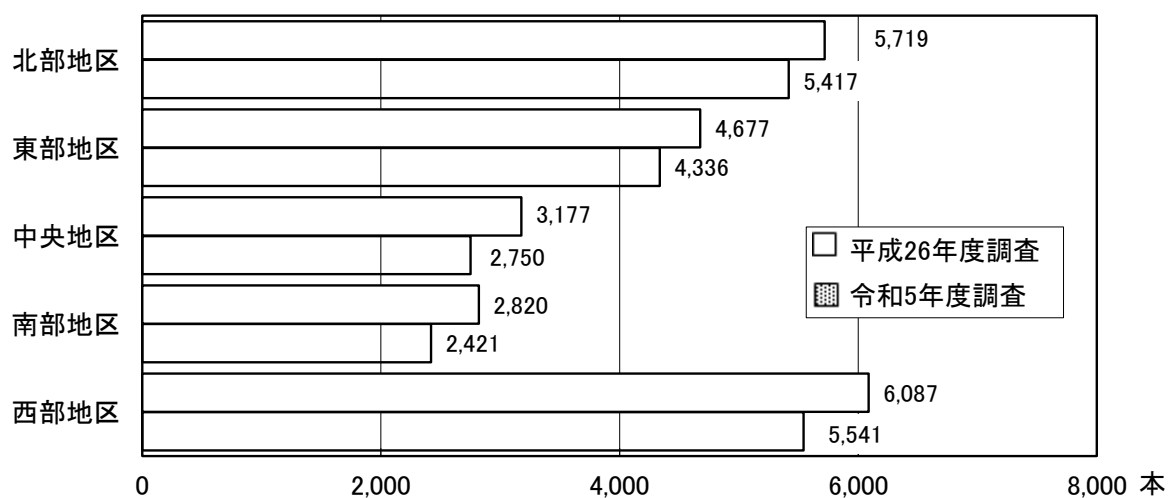
地区・住区別の樹木分布状況と経年変化を表Ⅱ-2-2、図Ⅱ-2-2、図Ⅱ-2-3に示す。

地区別に見ると、樹木本数は、面積の大きい西部地区が 5,541 本ともっとも多く、もっとも少ない南部地区 (2,421 本) の 2 倍を超えている。

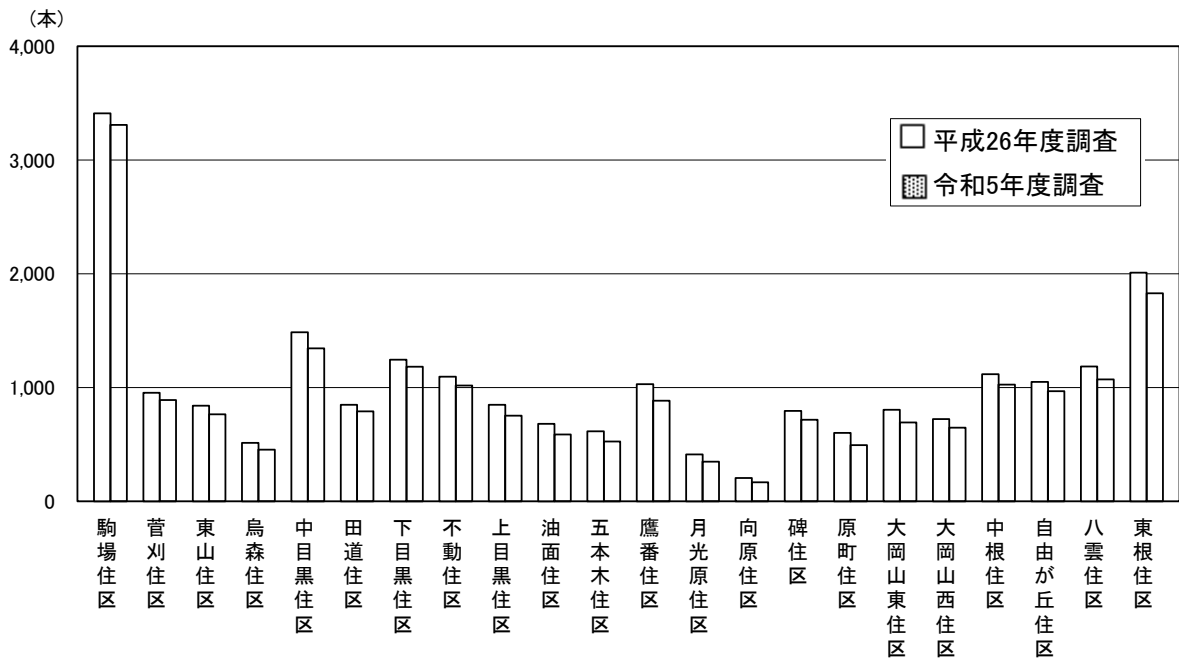
前回調査 (2014 (平成 26) 年度) との比較では、区全体の変化率は -9.0% であるが、これよりも大きく減少している (マイナスの変化率の大きい) 地区は中央・南部地区となっている。一方、区平均よりも減少の度合いが少ない地区は北部・東部地区で、西部地区は区平均の変化率とほぼ同じである。

住区別に見ると、樹木本数は駒場住区で 3,308 本、東根住区で 1,828 本と多く、中目黒住区が 1,344 本で続く。もっとも少ないのは向原住区で、167 本となっている。

前回調査との比較では、全ての住区で樹木本数が減少しており、大きく減少している (マイナス変化率の大きい) 住区は、向原 (-18.9%)、原町 (-17.8%)、月光原 (-15.3%) などである。



図Ⅱ-2-2 地区別の樹木本数と経年変化



図Ⅱ-2-3 住区別の樹木本数と経年変化

表Ⅱ-2-2 地区・住区別の樹木本数経年変化

地区	住区	平成26年度調査 樹木本数(本)	令和5年度調査 樹木本数(本)	変化本数(本) 令和5年度 -平成26年度 (本)	変化率 変化本数 ÷平成26年度 (%)
北部地区	駒場	3,410	3,308	-102	-3.0
	菅刈	954	890	-64	-6.7
	東山	841	765	-76	-9.0
	烏森	514	454	-60	-11.7
	地区全体	5,719	5,417	-302	-5.3
東部地区	中目黒	1,487	1,344	-143	-9.6
	田道	849	791	-58	-6.8
	下目黒	1,245	1,184	-61	-4.9
	不動	1,096	1,017	-79	-7.2
	地区全体	4,677	4,336	-341	-7.3
中央地区	上目黒	849	753	-96	-11.3
	油面	682	588	-94	-13.8
	五本木	615	525	-90	-14.6
	鷹番	1,031	884	-147	-14.3
	地区全体	3,177	2,750	-427	-13.4
南部地区	月光原	412	349	-63	-15.3
	向原	206	167	-39	-18.9
	碑	796	717	-79	-9.9
	原町	601	494	-107	-17.8
	大岡山東	805	694	-111	-13.8
	地区全体	2,820	2,421	-399	-14.1
西部地区	大岡山西	724	648	-76	-10.5
	中根	1,117	1,026	-91	-8.1
	自由が丘	1,051	967	-84	-8.0
	八雲	1,185	1,072	-113	-9.5
	東根	2,010	1,828	-182	-9.1
	地区全体	6,087	5,541	-546	-9.0
区全体	22,480	20,465	-2,015	-9.0	

(3) 用途地域別の現況

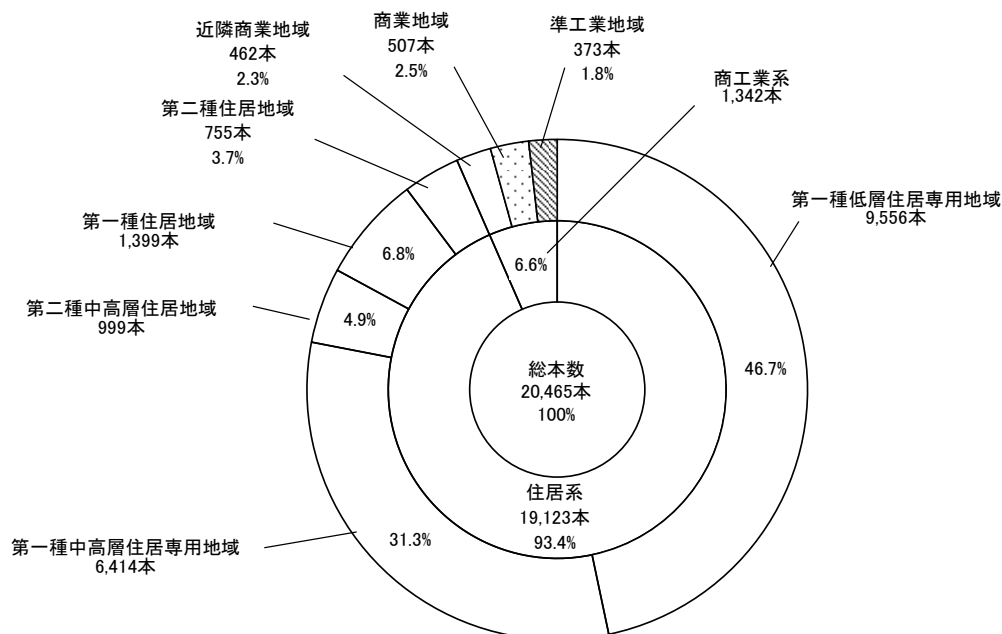
	(H26)		(R5)
○樹木の分布	93.2%が住居系用途地域	→	93.4%が住居系用途地域
○樹木の多い用途地域	第一種低層住居専用地域	→	第一種低層住居専用地域
少ない用途地域	準工業地域	→	準工業地域

用途地域別の樹木分布の現況と経年変化を表Ⅱ-2-3、図Ⅱ-2-4に示す。

第一種低層住居専用地域（9,556本）と第一種中高層住居専用地域（6,414本）で樹木本数が多く、準工業地域で373本ともっとも少ない。また、住居系の5用途で区内の樹木の93.4%を占めている。前回調査（2014（平成26）年度）と比較すると、全ての用途地域で減少傾向を示しており、第一種低層住居専用地域（-1,007本）の減少がもっとも大きい。

表Ⅱ-2-3 用途地域別の樹木本数経年変化

用途地域		平成26年度調査 (本)	令和5年度調査 (本)	増減 (本)
住居系	第一種低層住居専用地域	10,563	9,556	-1,007
	第一種中高層住居専用地域	6,905	6,414	-491
	第二種中高層住居専用地域	1,086	999	-87
	第一種住居地域	1,631	1,399	-232
	第二種住居地域	776	755	-21
住居系全体		20,961	19,123	-1,838
商工業系	近隣商業地域	545	462	-83
	商業地域	541	507	-34
	準工業地域	433	373	-60
商工業系全体		1,519	1,342	-177
区全体		22,480	20,465	-2,015



図Ⅱ-2-4 用途地域別の樹木本数の現況

(4) 土地利用区分別の現況

	(H26)	(R5)
○樹木の分布	48.4%が民有地・その他	→ 45.6%が民有地・その他
○樹木の多い土地利用区分	民有地・その他	→ 民有地・その他
○樹木の少ない土地利用区分	公営住宅等	→ 公営住宅等

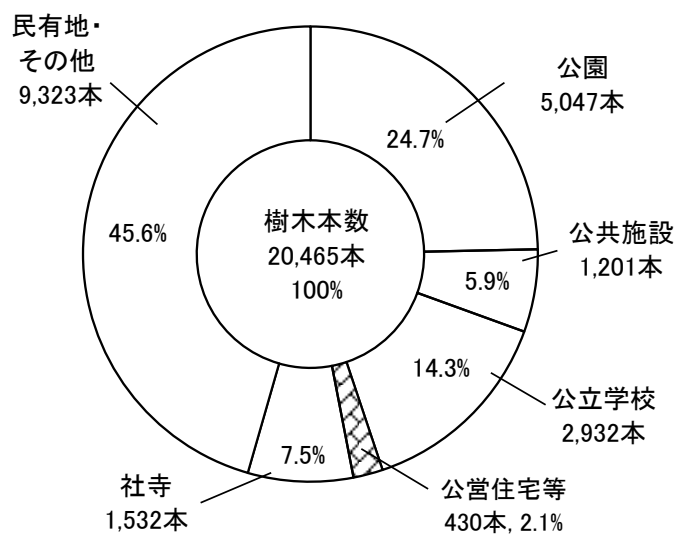
土地利用区分別の樹木分布の現況と経年変化を表Ⅱ-2-4、図Ⅱ-2-5に示す。

土地利用区分別の樹木は、民有地・その他（9,323本）にもっとも多く、公営住宅等（430本）でもっとも少なくなっている。

前回調査（2014（平成26）年度）と比較すると、全ての土地利用区分で減少傾向を示しており、民有地・その他（-1,559本）の減少がもっとも大きい。

表Ⅱ-2-4 土地利用区分別の樹木本数経年変化

土地利用区分		平成26年度調査 (本)	令和5年度調査 (本)	増減 (本)
公共施設	公園	5,100	5,047	-53
	公共施設(庁舎等)	1,311	1,201	-110
	公立学校	3,123	2,932	-191
	公営住宅等	512	430	-82
	公共施設全体	10,046	9,610	-436
民有地・その他	社寺	1,552	1,532	-20
	民有地・その他	10,882	9,323	-1,559
	民有地・その他全体	12,434	10,855	-1,579
区全体		22,480	20,465	-2,015



図Ⅱ-2-5 土地利用区分別の樹木本数の現況

(5) 樹木本数の多い敷地

樹木本数の多い敷地の上位 30 位を表Ⅱ-2-5に示す。樹木本数のもっとも多い敷地は東京大学駒場Ⅰキャンパス（1,063 本）で、次いで駒場公園（697 本）となる。ともに北部地区の駒場住区にある。駒場住区では、これら以外にも上位 30 位に入る敷地がいくつかあり、樹木本数の多い施設が集中した住区といえる。

中央地区と南部地区では樹木本数の多い施設は少なくなる。

表Ⅱ-2-5 樹木本数の多い敷地上位 30 位

	名称	所在地	本数	種数	住区	地区
1	東京大学駒場Ⅰキャンパス	駒場3-8	1,063	61	駒場	北部
2	駒場公園	駒場4-3	697	72	駒場	北部
3	都立林試の森公園	下目黒5-37	483	87	不動	東部
4	東京工業大学大岡山キャンパス	大岡山2、緑が丘1	350	28	中根	西部
5	防衛省防衛研究所	中目黒2-2	334	34	中目黒	東部
6	東京大学駒場Ⅱキャンパス	駒場4-6-1	312	43	駒場	北部
7	龍泉寺(目黒不動尊)	下目黒3-20	307	35	下目黒	東部
8	碑文谷公園	碑文谷6-9	304	35	鷹番	中央
9	都立駒沢オリンピック公園	東が丘2-16	288	20	東根	西部
10	駒場野公園	駒場2-19	264	47	駒場	北部
11	呑川本流緑道	緑が丘1、大岡山1、中根1、平町1、2、八雲1、2、3	235	3	中根、自由が丘、大岡山西、八雲	西部
12	国立病院機構東京医療センター	東が丘2-5	220	27	東根	西部
13	祐天寺	中目黒5	196	27	中目黒、上目黒	東部、中央
14	呑川柿の木坂支流緑道	東が丘1、柿の木坂1、2、3	195	16	八雲、東根	西部
15	円融寺	碑文谷1-22	188	29	碑	南部
16	防衛省東山宿舎	東山2	187	24	東山	北部
17	碑文谷八幡宮	碑文谷3-7	186	20	大岡山東	南部
18	目黒雅叙園	下目黒1-8	177	15	下目黒	東部
19	菅刈公園	青葉台2-11	168	37	菅刈	北部
20	中根公園	中根2-6	168	22	中根	西部
21	衾町公園	八雲5-7	151	33	東根	西部
22	すずめのお宿緑地公園	碑文谷3-11	141	26	大岡山東	南部
23	西郷山公園	青葉台2-10	134	31	菅刈	北部
24	東山公園	東山2、3	123	27	東山	北部
25	九品仏川緑道	自由が丘1、緑が丘1	122	2	自由が丘	西部
26	都立桜修館中学教育学校	八雲1-1	122	22	八雲	西部
27	八雲氷川神社	八雲2-4	120	16	八雲	西部
28	中央官庁渋谷会議所(旧朝倉家住宅)	上目黒1、青葉台1	90	29	菅刈	北部
29	目黒区民センター公園	目黒2-4	88	19	下目黒	東部
30	都立駒場高校	大橋2-18	85	20	駒場	北部

2. 樹種の特徴

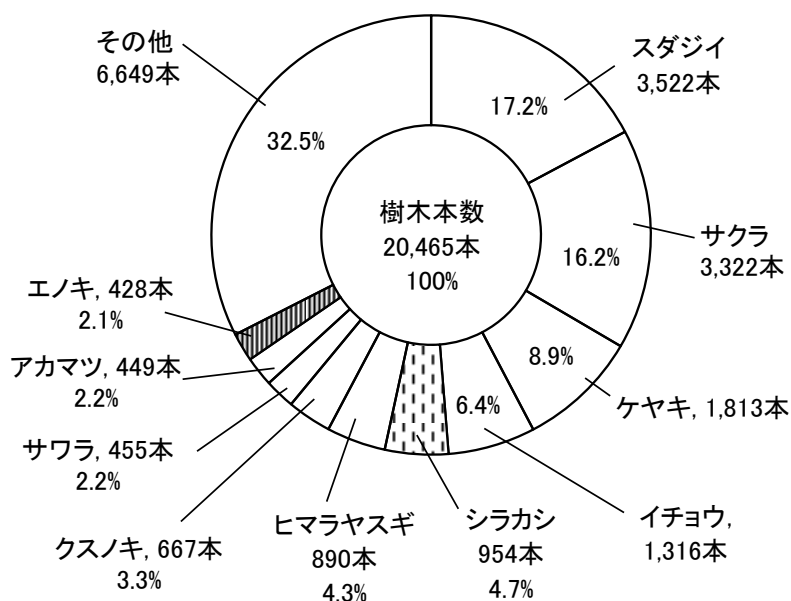
(1) 区全体の状況

	(H26)		(R5)
○樹種数	238 種	→	240 種
○上位 10 種の割合	67.8%	→	67.5%

樹種別の本数と構成比を表Ⅱ-2-6、図Ⅱ-2-6に示す。今回確認された樹種は 240 種である。樹種別の本数ではスダジイがもっとも多く、全体の 17.2%を占め、次いでサクラ、ケヤキ、イチョウが多い。また、上位 10 種で 67.5%を占めている。

表Ⅱ-2-6 樹種別の本数

順位	樹種	本数(本)	構成比(%)
1	スダジイ	3,522	17.2
2	サクラ	3,322	16.2
3	ケヤキ	1,813	8.9
4	イチョウ	1,316	6.4
5	シラカシ	954	4.7
6	ヒマラヤスギ	890	4.3
7	クスノキ	667	3.3
8	サワラ	455	2.2
9	アカマツ	449	2.2
10	エノキ	428	2.1
11	その他	6,649	32.5
	合計	20,465	100.0



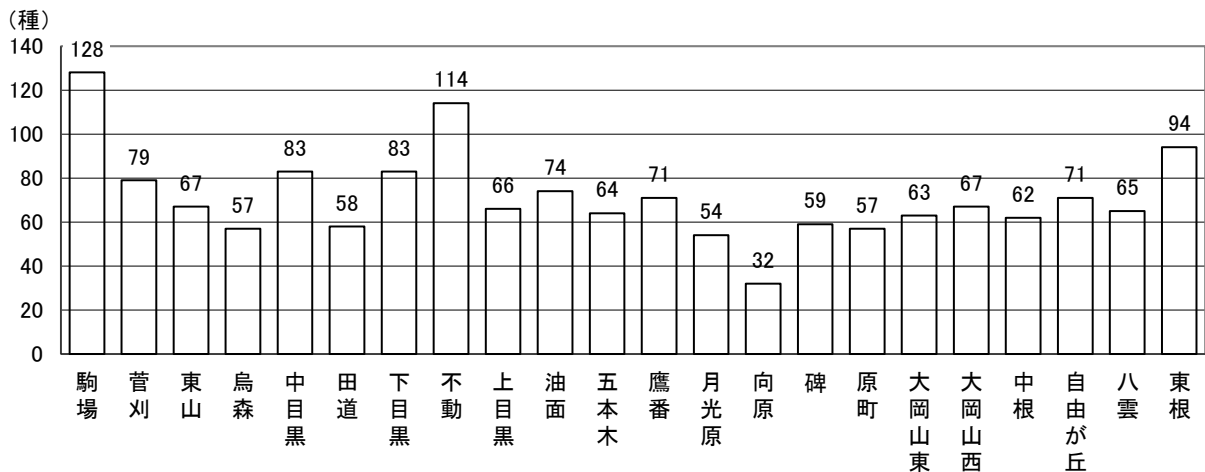
図Ⅱ-2-6 樹種別本数構成比

(2) 住区別の状況

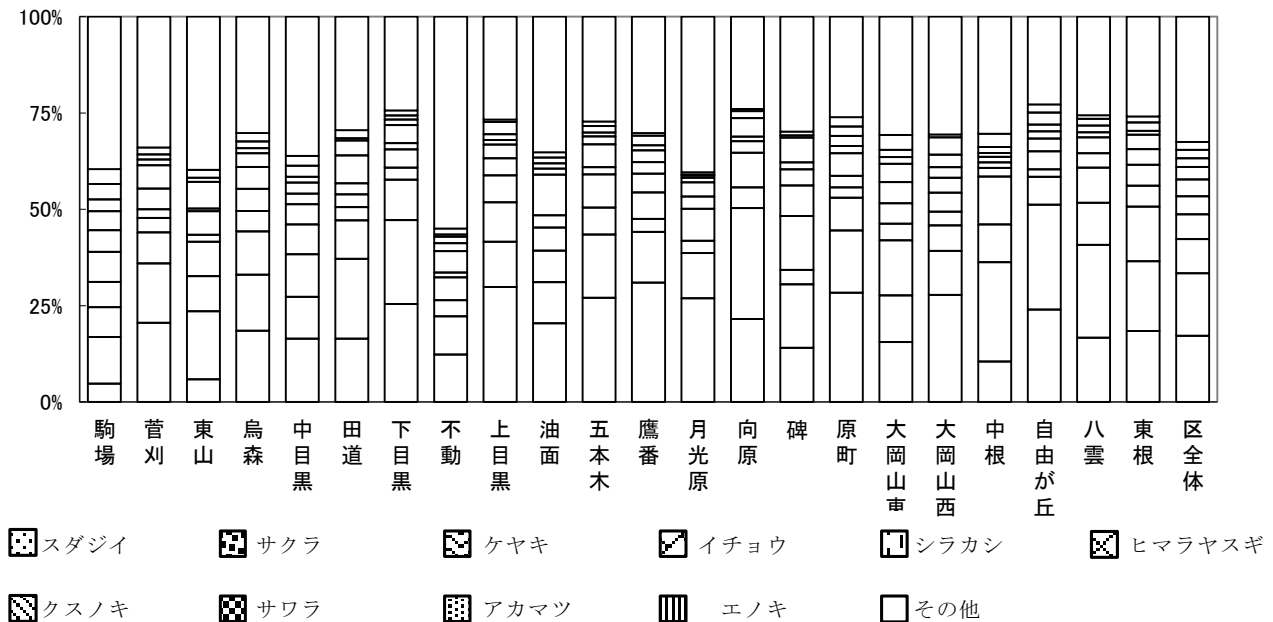
		(H26)		(R5)
○100種以上の住区		駒場、不動住区	→	駒場、不動住区

住区別の樹種数（一般名も含めた単純集計）を図Ⅱ-2-7に、住区別の樹種別構成比を図Ⅱ-2-8に示す。住区別の樹種構成数は駒場住区で128種ともっとも多い。不動住区が114種とこれに続く。他の住区では概ね70種前後の樹種が確認され、向原住区で32種ともっとも少なくなっている。

各住区とも樹種ごとの構成比に多少違いがあるものの、大半の住区において上位10種で区内の全本数の概ね70%程度を占めており、区全体の構成と同様の傾向を示す。駒場、東山、月光原の各住区では上位10種の占める割合がやや低くなっており、不動住区ではもっとも低く、他の住区と傾向が異なっている。



図Ⅱ-2-7 住区別の樹種数

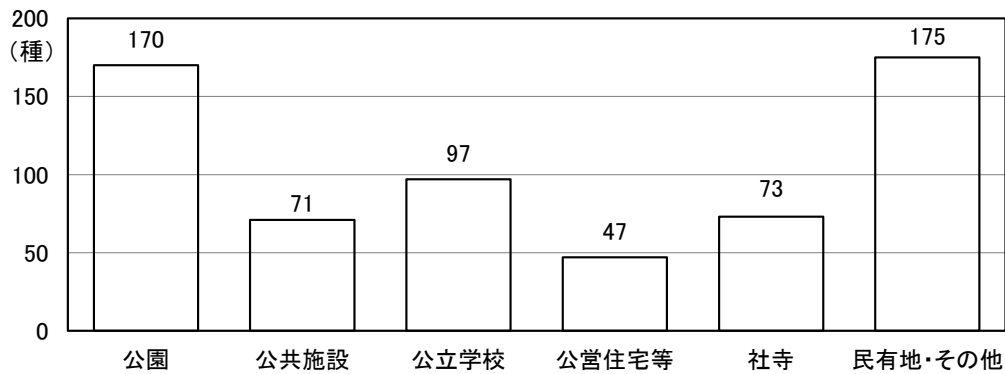


図Ⅱ-2-8 住区別の樹種別構成比

(3) 土地利用区分別の状況

	(H26)	(R5)
○100種以上の土地利用区分	公園、民有地・その他	→ 公園、民有地・その他

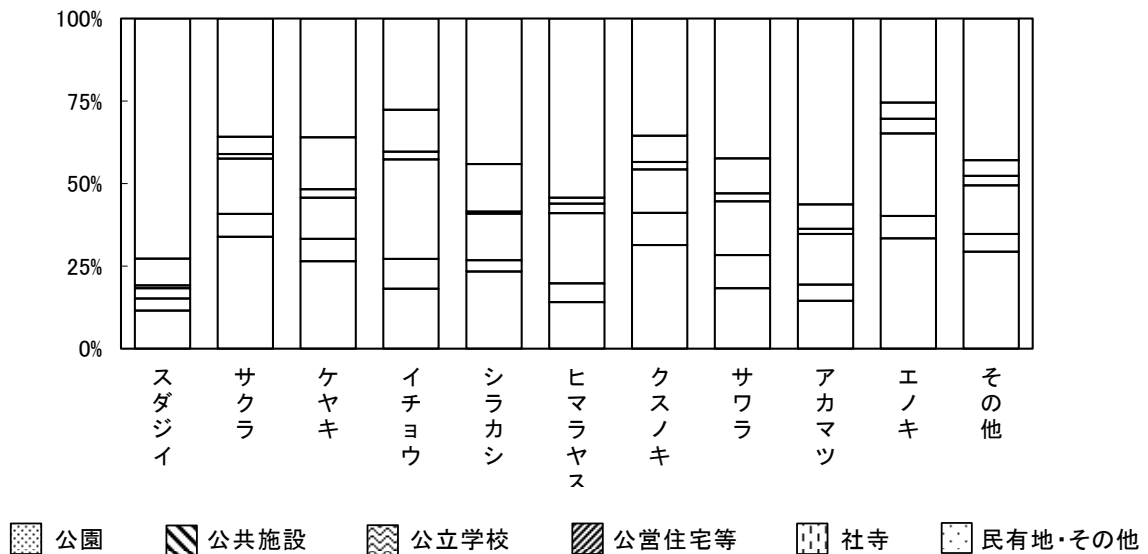
土地利用区分別の樹種数を図Ⅱ-2-9に、上位10種の樹種別の土地利用別構成比を図Ⅱ-2-10にそれぞれ示す。土地利用区分別に樹種の数を見ると、土地利用区分別の樹木本数の傾向と同じく、民有地・その他で樹種数をもっとも多く、次いで公園、公立学校となる。



図Ⅱ-2-9 土地利用区分別の樹種数

また、樹種により各土地利用に占める割合に差が見られ、それぞれに異なった植栽が行われている様子うかがえる。スタジイはその約7割が、ヒマラヤスギ、アカマツはその約6割が、民有地・その他に存在している。それに対して、サクラ、イチョウ、クスノキ、エノキは半数以上が公園、公共系の土地利用に存在しており、特にイチョウは公立学校に多い。

ケヤキ、シラカシは、社寺に占める割合が他の樹種に比べて高い。



図Ⅱ-2-10 樹種別の土地利用別構成比

3. 樹木の太さ

	(H26)		(R5)
○直径 30cm 未満の樹木の割合	54.7%	→	53.4%

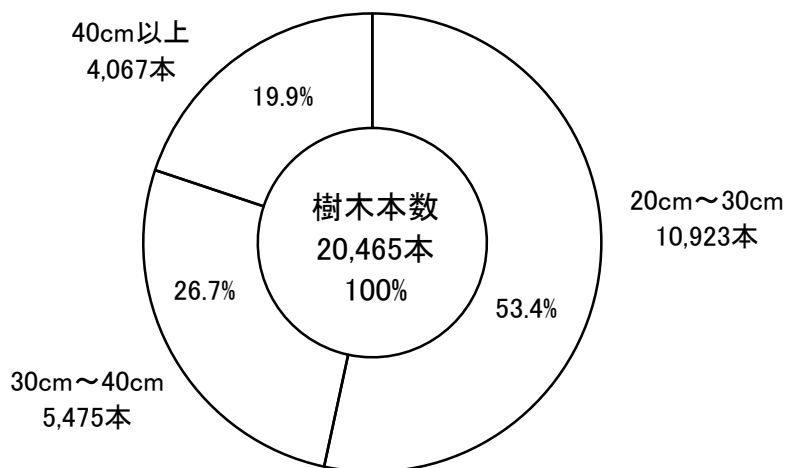
(1) 区全体の状況

直径が 20cm 以上の樹木について、直径区別の樹木本数の状況を表Ⅱ-2-7、図Ⅱ-2-11に示す。

本区の樹木の 53.4%が直径 30cm 未満の樹木であり、40cm 以上の樹木は 19.9%である。約 8 割が直径 40cm 未満の樹木で占められている。

表Ⅱ-2-7 直径区別樹木本数

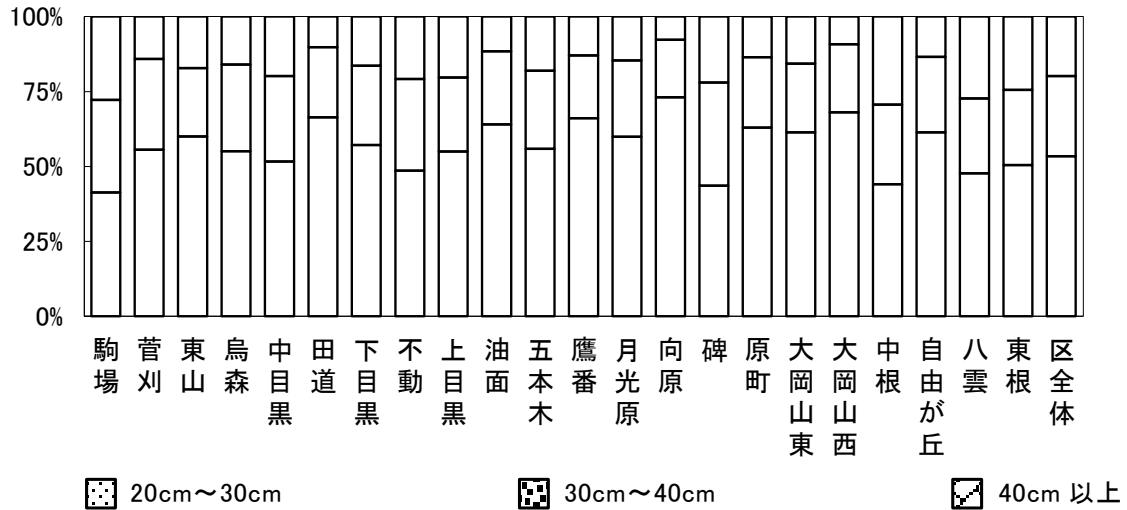
直径区分		本数(本)	構成比(%)
A	20cm以上30cm未満	10,923	53.4
B	30cm以上40cm未満	5,475	26.7
C	40cm以上	4,067	19.9
合計		20,465	100.0



図Ⅱ-2-11 直径区別の樹木本数構成比

(2) 住区別の状況

住区別の直径区分別構成比を図Ⅱ-2-12に示す。直径30cm以上の樹木の割合の大きい住区は駒場、碑、中根、八雲、不動住区で、いずれも50%を超えている。一方、少ない住区は向原、大岡山西、田道、鷹番住区で30%前後となっている。

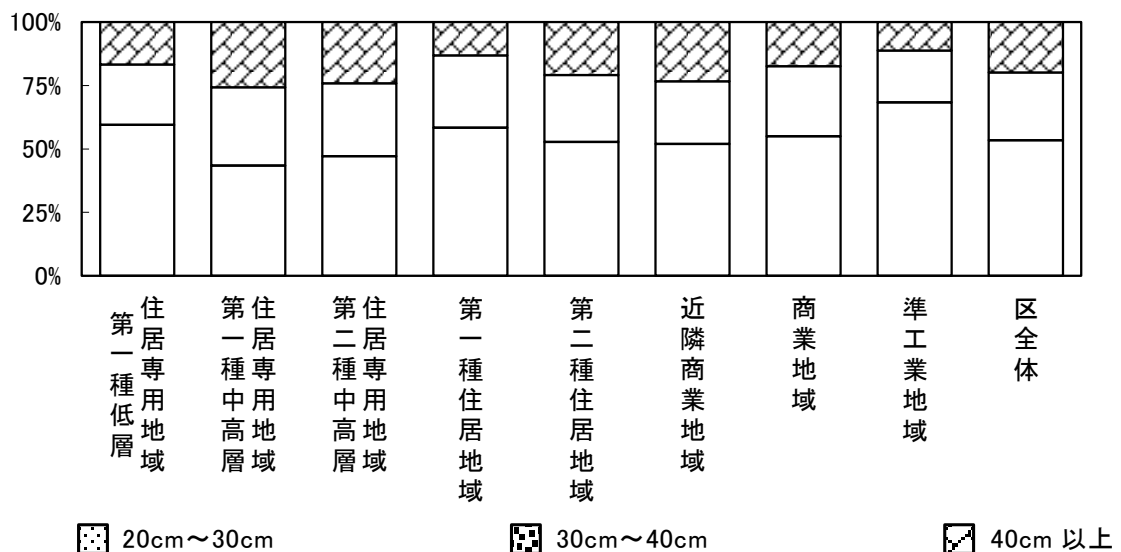


図Ⅱ-2-12 住区別の樹木直径区分別構成比

(3) 用途地域別の状況

用途地域別の樹木直径区分別構成比を図Ⅱ-2-13に示す。直径30cm以上の樹木の割合の高い用途地域は、第一種・第二種中高層住居専用地域でいずれも50%を超えている。

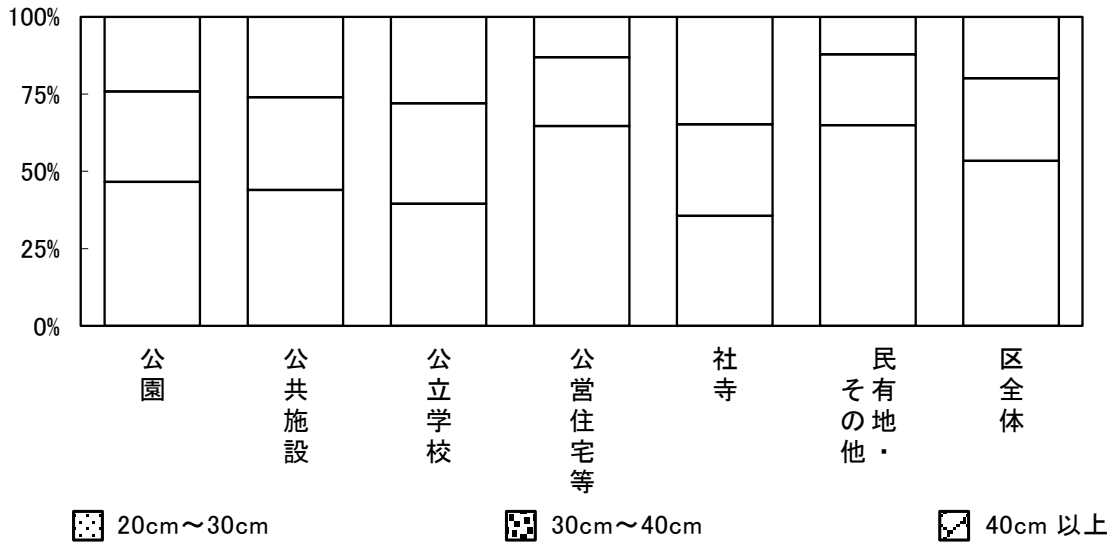
これらの地域には、太い樹木の割合が高い公園（駒場野公園、都立林試の森公園、都立駒沢オリンピック公園など）、公共施設（東京大学駒場Ⅰキャンパスなど）、社寺（龍泉寺（目黒不動尊）、円融寺など）が多く存在している。



図Ⅱ-2-13 用途地域別の樹木直径区分別構成比

(4) 土地利用区分別の状況

土地利用区分別の樹木直径区分別構成比を図Ⅱ-2-14に示す。公園、公共施設、公立学校、社寺ではいずれも直径30cm以上の樹木が50%以上を占めている。一方、公営住宅等と民有地・その他は35%前後である。これは、公園、公共施設、公立学校、社寺では樹木が比較的長期間にわたって保全育成されてきたことを意味する。これに対し、公営住宅等、民有地・その他では樹木が長期間にわたり保全されにくい状況を示していると考えられる。

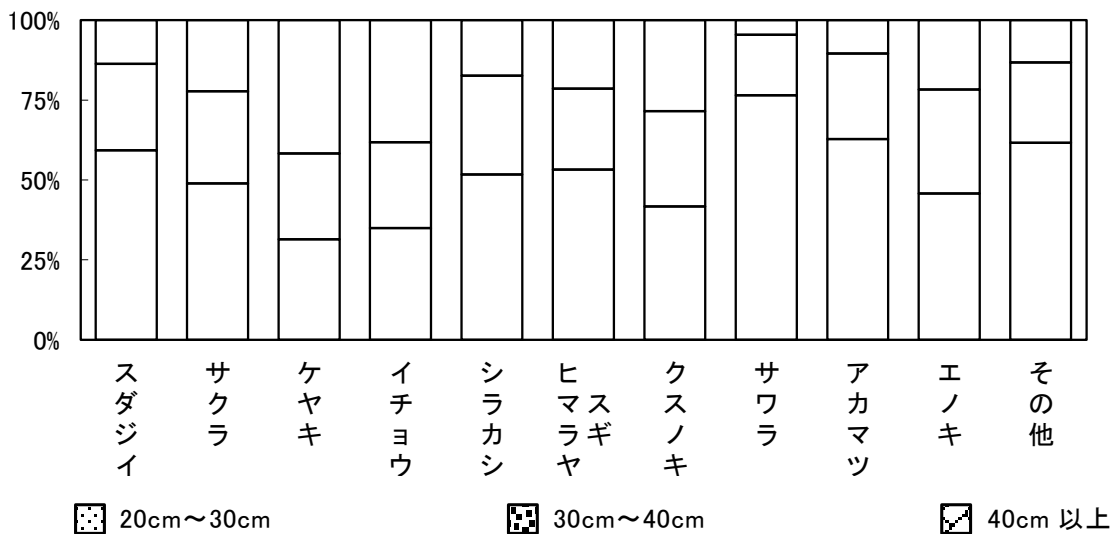


図Ⅱ-2-14 土地利用区分別の樹木直径区分別構成比

(5) 樹種別の状況

本数の上位10種とその他の樹種別の直径区分別構成比を図Ⅱ-2-15に示す。

樹種により構成比に差が見られ、ケヤキ、イチョウ、クスノキで太い樹木の割合が高く、サワラ、アカマツ、スダジイでは細い樹木の割合が高い。



図Ⅱ-2-15 樹種別の直径区分別構成比

(6) 大径木

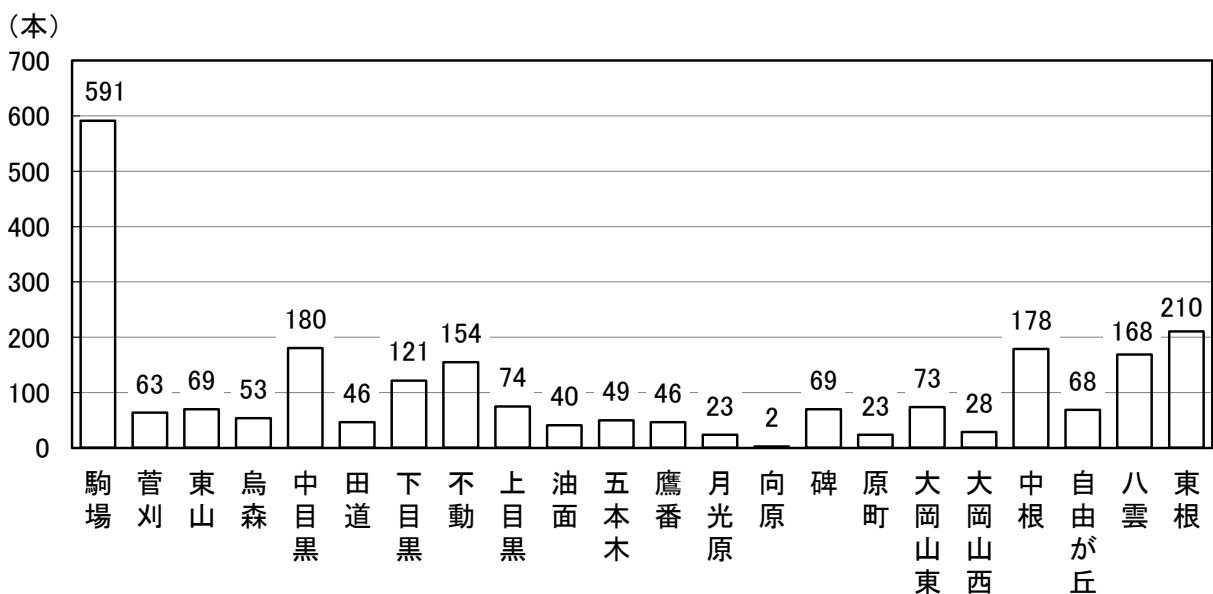
樹種別直径 50cm 以上の樹木本数を表Ⅱ-2-8 に、住区別の直径 50cm 以上の樹木本数を図Ⅱ-2-16 にそれぞれ示す。本区にある直径 50cm 以上の大径木は 2,328 本である。

樹種別ではケヤキがもっとも多く、サクラ、イチョウ、スダジイが続く。また、土地利用区分別に見ると、総樹木本数が多い公園、民有地・その他、公立学校、社寺の順に多く分布している。

公の場として、あるいは信仰のシンボルとして樹木が保全されてきたことがうかがえる。

表Ⅱ-2-8 樹種別直径 50cm 以上の樹木本数

樹種	公園	公共施設	公立学校	公営住宅等	社寺	民有地・その他	全本数	樹種別構成比(%)
ケヤキ	129	33	82	5	126	144	519	22.3
サクラ	152	51	113	4	17	81	418	18.0
イチョウ	44	45	105	3	68	48	313	13.4
スダジイ	35	27	16	1	40	102	221	9.5
クスノキ	38	7	32	0	10	23	110	4.7
ヒマラヤスギ	38	14	19	1	2	31	105	4.5
ムクノキ	31	5	15	0	11	11	73	3.1
シラカシ	33	4	10	0	14	9	70	3.0
エノキ	21	7	15	0	5	7	55	2.4
プラタナス	16	4	20	0	5	8	53	2.3
アカガシ	4	1	0	1	23	4	33	1.4
ミズキ	13	1	8	1	4	3	30	1.3
クロマツ	13	7	3	0	1	4	28	1.2
ユリノキ	5	0	15	3	0	4	27	1.2
クスギ	11	2	5	0	0	8	26	1.1
アカマツ	8	1	6	1	0	5	21	0.9
その他	102	6	47	3	12	56	226	9.7
合計	693	215	511	23	338	548	2,328	100
土地利用区分別の割合(%)	29.8	9.2	22.0	1.0	14.5	23.5	100.0	—



図Ⅱ-2-16 住区別の直径 50cm 以上の樹木本数

公共施設の多い駒場住区では、直径 50 c m以上の樹木分布が 591 本と突出しており、公園等の公共施設や社寺が多い東根、中目黒、中根住区などがそれに続く。また、緑被率・一人当たりの緑被面積ともにもっとも少ない向原住区では、2 本と非常に少ない。

表Ⅱ-2-9に区内の大径木上位 30 本を示す。

表Ⅱ-2-9 大径木上位 30 本

順位	樹種	直径実測 (cm)	所在地	備考
1	クスノキ	152	駒場4-3	駒場公園内
2	ケヤキ	151	平町1-16	桜森稻荷神社内
3	トウカエデ	148	中目黒2-3	東京共済病院内
4	クスノキ	145	駒場4-3	駒場公園内
5	ケヤキ	144	駒場4-6	東京大学駒場Ⅱキャンパス内
6	イチヨウ	143	八雲1-2	常圓寺内
7	クスノキ	141	駒場4-3	駒場公園内
8	エノキ	140	駒場3-8	東京大学駒場Ⅰキャンパス内
9	イチヨウ	139	青葉台2-11	菅刈公園内
10	イチヨウ	131	八雲1-9	東光寺内
11	ケヤキ	131	八雲1-9	東光寺内
12	クスノキ	126	駒場3-8	東京大学駒場Ⅰキャンパス内
13	クスノキ	125	下目黒5-37	都立林試の森公園内
14	クスノキ	124	下目黒5-37	都立林試の森公園内
15	クヌギ	123	下目黒6-8	都立林試の森公園内
16	ヒマラヤスギ	121	駒場3-8	東京大学駒場Ⅰキャンパス内
17	クスノキ	120	大橋2-16	大橋氷川神社内
18	スダジイ	119	三田1-1	個人住宅内
19	クスノキ	117	駒場3-8	東京大学駒場Ⅰキャンパス内
20	スダジイ	116	下目黒3-21	不動公園内
21	イチヨウ	115	下目黒3-1	大鳥神社内
22	イチヨウ	113	中根2-21	立源寺内
23	イチヨウ	111	碑文谷1-22	円融寺内
24	プラタナス	110	駒場3-8	東京大学駒場Ⅰキャンパス内
25	ユリノキ	110	駒場3-8	東京大学駒場Ⅰキャンパス内
26	プラタナス	110	八雲1-1	都立桜修館中学教育学校内
27	クスノキ	109	下目黒5-37	都立林試の森公園内
28	クスノキ	109	駒場4-3	駒場公園内
29	ケヤキ	107	自由が丘1-24	熊野神社内
30	クスノキ	105	下目黒5-37	都立林試の森公園内

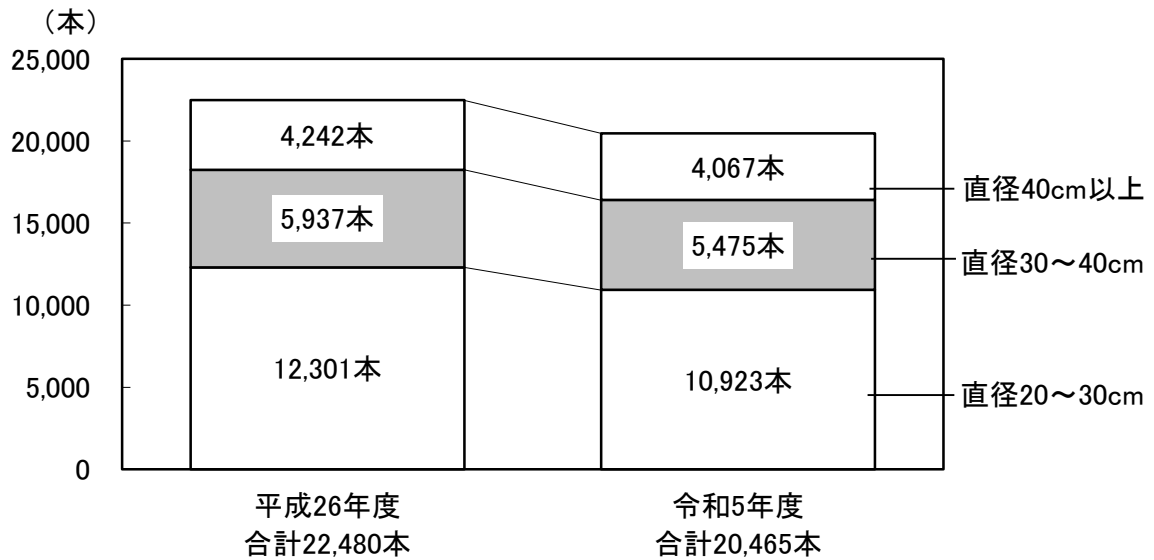
4. 樹木の変化要因

前回調査（2014（平成26）年度）との樹木本数の経年変化を図Ⅱ-2-17に示す。

区全体の緑被率では、前回調査の17.3%から17.0%と0.3ポイント減少したが、樹木本数も同様の傾向であり、直径区分別の樹木本数においても、いずれも減少傾向を示している。

住区別の樹木本数の変化においても、いずれも減少傾向となっており、住区別の緑被率にも影響している。

また、直径50cm以上の大径木も、84本減少しており、この10年間に老齢化や樹勢低下等による倒伏、宅地開発に伴い伐採したことがうかがえ、引き続き継続的な管理、保全が望まれる。



図Ⅱ-2-17 樹木本数の直径区分別経年変化

Ⅱ-3 樹木Ⅱ（道路植栽）調査

1. 道路植栽の現況

	(H26)		(R5)
○街路樹本数	5,885本	→	5,769本
○街路樹本数の多い道路	区道、都道	→	区道、都道
○街路樹本数の増減	33本の減少	→	116本の減少
○街路樹本数の増加した道路	区道	→	都道
減少した道路	都道、国道	→	区道、国道

管理者別道路植栽の現況と経年変化を表Ⅱ-3-1に、道路植栽分布図を図Ⅱ-3-1に示す。

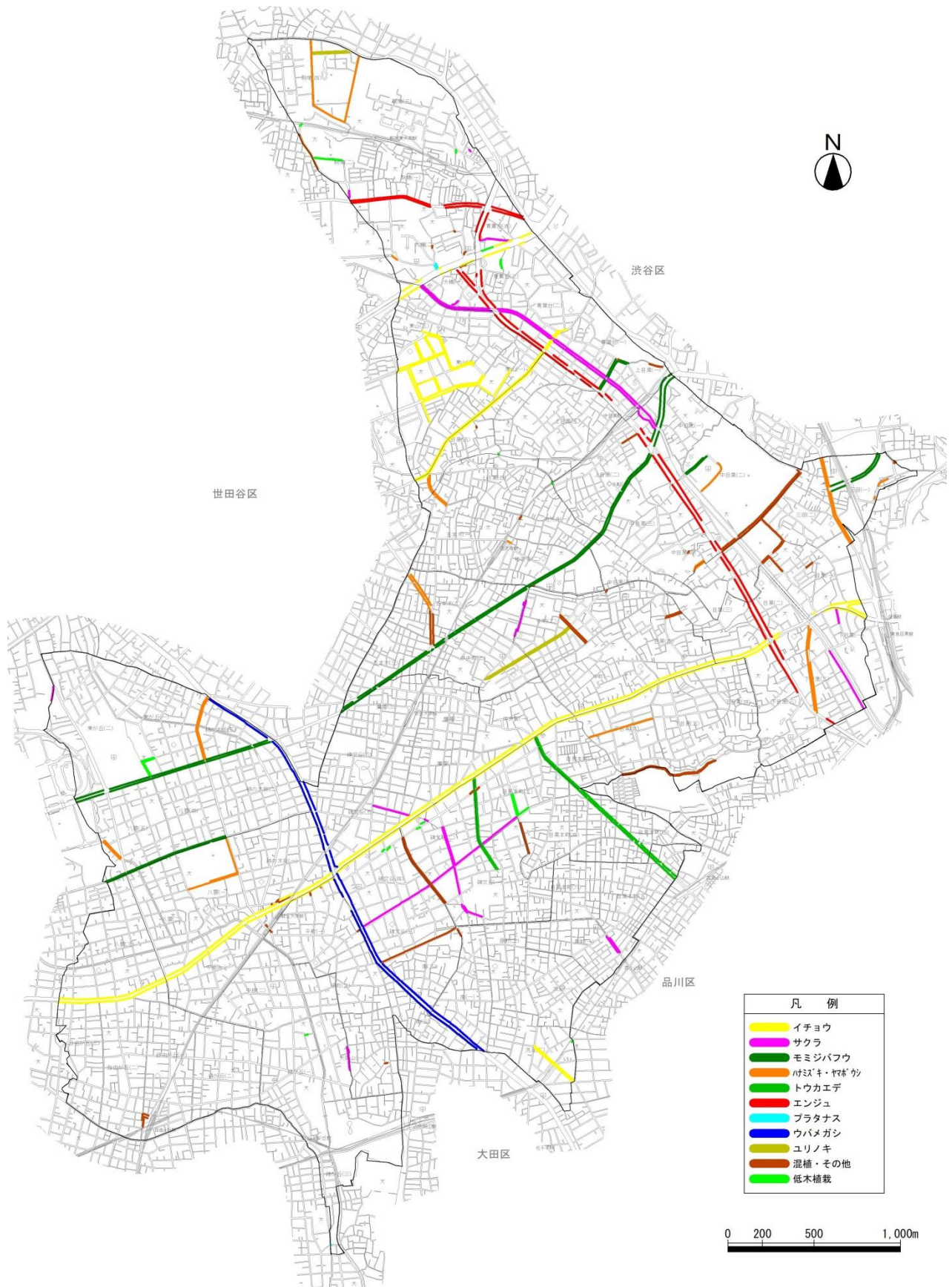
本区の街路樹本数は5,769本である。このうち区の管理する区道が2,767本（48.1%）、また都道が2,926本（50.7%）、国道が76本（1.3%）となっている。この構成比は、道路植栽延長、道路植栽面積においてもほぼ同様の傾向を示している。

前回調査（2014（平成26）年度）と比較して、区全体で116本の街路樹が減少した。管理者別では、都道で51本が増加し、区道において163本、国道において4本減少している。

道路植栽面積については、区道と都道を合わせて1,172㎡減少している。

表Ⅱ-3-1 街路樹本数の経年変化

道路植栽	平成26年度調査				令和5年度調査				増減			
	区道	都道	国道	合計	区道	都道	国道	合計	区道	都道	国道	合計
植栽本数 （街路樹、本）	2,930	2,875	80	5,885	2,767	2,926	76	5,769	-163	51	-4	-116
道路植栽延長 （m）	19,144	18,215	814	38,173	19,144	18,215	814	38,173	0	0	0	0
道路植栽面積 （㎡）	19,186	14,734	1,128	35,048	18,711	14,037	1,128	33,876	-475	-697	0	-1,172



図Ⅱ-3-1 道路植栽分布図

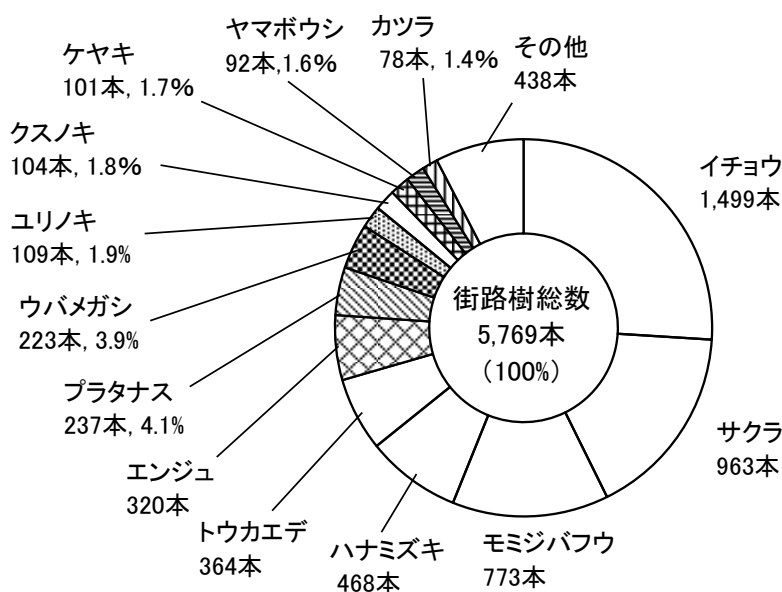
2. 街路樹種の特徴

○樹種数	(H26) 71種	→	(R5) 70種
------	--------------	---	-------------

樹種別の本数を表Ⅱ-3-2に、本数構成比を図Ⅱ-3-2に示す。上位からイチョウ、サクラ、モミジバフウの順で、この上位3種で全体の半数以上（56.1%）を占める。樹種数は合わせて70種におよび、管理者別では区道の樹種数が64種で最も多く、地域の特徴を踏まえ多様な植栽を行っている様子がうかがえる。都道は18種、国道はイチョウとエンジュの2種のみである。

表Ⅱ-3-2 樹種別の本数

樹種名	区道	都道	国道	合計	構成比(%)
イチョウ	437	990	72	1,499	26.0
サクラ	949	14	0	963	16.7
モミジバフウ	216	557	0	773	13.4
ハナミズキ	429	39	0	468	8.1
トウカエデ	86	278	0	364	6.3
エンジュ	45	271	4	320	5.5
プラタナス	5	232	0	237	4.1
ウバメガシ	0	223	0	223	3.9
ユリノキ	109	0	0	109	1.9
クスノキ	5	99	0	104	1.8
ケヤキ	27	74	0	101	1.7
ヤマボウシ	92	0	0	92	1.6
カツラ	45	33	0	78	1.4
その他	322	116	0	438	7.6
合計	2,767	2,926	76	5,769	100.0



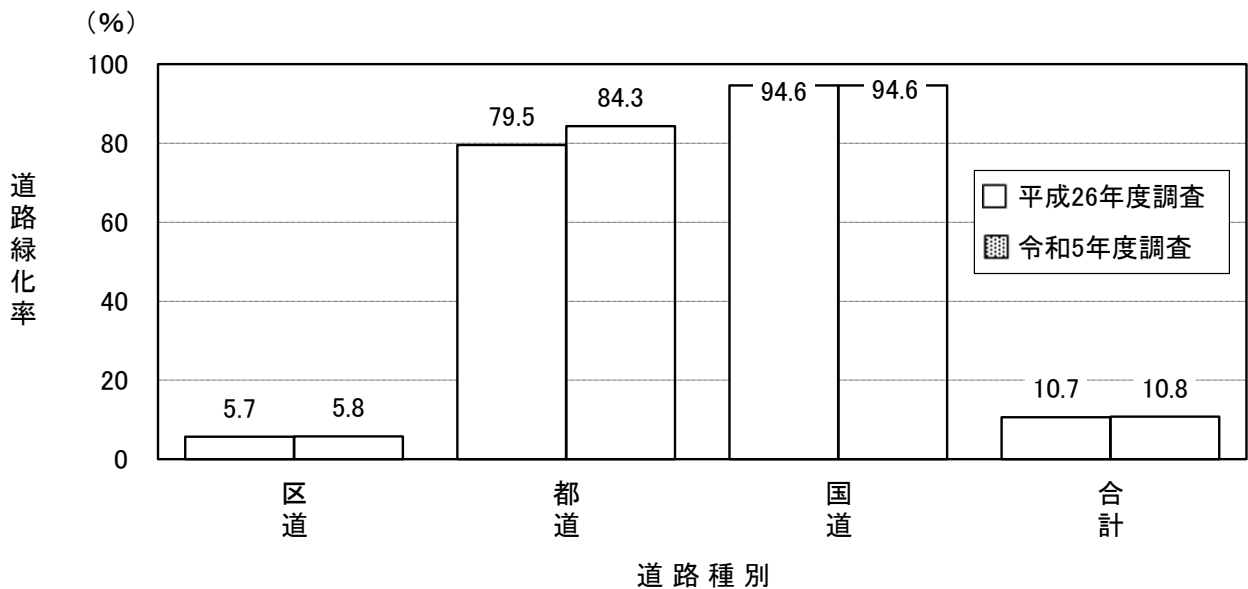
図Ⅱ-3-2 樹種別の本数構成比

3. 道路緑化率

	(H26)		(R5)
○道路緑化率	10.7%	→	10.8%
○道路緑化率の高い道路	都道、国道	→	都道、国道
	道		

管理者別道路緑化率（道路総延長を100としたときの植栽延長の割合、%）の現況と経年変化を図Ⅱ-3-3に示す。区、都、国道を合わせた区全体の道路緑化率は10.8%である。管理者別では国道、都道で高く、幅員が狭く緑化の難しい区道では道路緑化率は低くなっている。

前回調査（2014（平成26）年度）と比較して、道路緑化率は0.1ポイント増加した。これは区道、都道の道路延長が減少したことが影響したものである。



図Ⅱ-3-3 管理者別道路緑化率

4. 道路植栽の変化要因

目黒川沿いの桜並木の植え替えや他の道路の道路整備や老木の伐採などにより、樹木が減少していた。

このように、区道、国道の道路植栽の減少については、道路整備と伐採による影響が大きい。また、これらの道路は既に道路緑化率が高いため、今後も大幅な増加は見込めない。

一方で都道については、道路拡張による歩道等の整備に伴い、道路植栽の整備がおこなわれたため樹木本数が増加している。